

この国の乾季のさわやかさが、好きだ！

myan myan

日本語版

Japan - Myanmar

GUIDE BOOK

10 | Oct
2017

特集 ①

飲み水は安全・安心？
独自調査！ヤンゴンのお水

特集 ②

若者100人に聞いた！
ミャンマー人の恋愛・結婚

他、News、連載コラムなど

ミャンミャン編集部
広告等のお問合せはこちら

09-253-42-42-42 (日本時間)

第33号

Free

日本語能力試験(JLPT)のミャンマーの受験者は、大使館のサイトによれば、昨年は1万人弱だったのに対し、1万5千人以上に増えた。ここ数年は毎年1.5倍のペースで増加している。

News
8月のスピーチ



恒例の行事が“大会ベスト”更新!?

8月下旬に、日本語の大会が立て続けに2つ開催!

学びへの情熱をぶつける若者たち、その思いよ日本に届け!

在

ミャンマー日本大使館とMAJA(ミャンマー元日本留学生協会)主催の「第18回日本語スピーチコンテスト」が8月20日、ヤンゴンのパークロイヤル・ホテルで行われた。ヤンゴンとマンダレーで一次予選が行われ、応募49名から15名が本選に出場した(当日参加は13名)。

5分間の持ち時間で、各自のスピーチを披露。笑いあいの発表も多く、発表者と会場が一体となる場面も見られた。自らの経験を通して、いかに自分の考えを言葉で伝え、いかに日本人に近い自然な話し方ができているかなど、審査基準は厳しい。今年はヤンゴン外国語大学(YUFL)の活躍が目立った。

記者は過去4回見ているが、年々レベルが上がってきているように感じた。たとえば、質疑応答もポイントの1つで、答え方や切り返しの上手な人が多くなったように思う。優勝したのは Khat Sabai Sintさんで、テーマは「真心」。今秋にASEAN各国の優勝者とともに、東京で開催されるプログラムへ参加する。

一方、8月24日にヤンゴンのノボテル・ホテルで行われたのは、共立国際交流奨学財団の主催、MOMIJI日本語センター運営の「第7回日本語体験コンテストinヤンゴン」。こちらは応募者72名。午前の1次審査では、日本の政治や経済、スポーツ、芸能、歴史など、さまざまな分野から30問。高得点者17名が、午後の本選へ。

本選ではテーマが3つ出題され、各自が1つを選択し、考える時間は5分間。その後、まとまった人から挙手をし、3分間以内でスピーチ発表という何ともスリリングな課題だ。早く挙手をし、内容も認められれば1番の高ポイントになる。過酷と思われる選考に、詰まったり、短くなったりで緊張感が満載だ。入賞した5名は来年1月、1週間の日本体験旅行に参加する(他の東南アジア各国からの入賞者も同時に参加)。

日本への関心や日本語の需要が高まるにつれて、今後もこのようなコンテストは大いに盛り上がっていくはずだ!